

2022年3月27日 設立記念会

日時 2022年3月27日

場所 Zoomにてオンライン開催

参加費 無料

プログラム

11:00-12:00 設立記念講演

『閉じない・困り込まない；オープンシステムとしてのTEAと質的探究学会』

講演者：サトウタツヤ(立命館大学)

司会者：ウォーカー泉(シンガポール国立大学)

概要：

TEA(複線径路等至性アプローチ)は2004年に方法論として産声をあげたが、単なる方法に留まるものではない。等至性という考え方自体が心理学を始めとする諸学問に認識の転換を迫るものだからである。

またTEAの背景には記号論的文化心理学という理論体系があり、記号論の様々な立場や文化心理学(比較文化心理学を含む)の様々な立場とも相互に関係をもっている。

ところで、TEAが様々な学範で使われるようになってくると、その全貌が捉えにくくなっているという現実に直面するようになってきた。そこでTEA(複線径路等至性アプローチ)を用いる人々が集まるためのアリーナが必要になってきたのである。

学会化は閉じたサークルを作るのではなく、可視化された開放システムを作ることによってダイナミックなトランザクションの機会を作ることが目的である。

本講演ではTEAの過去・現在・未来を展望することで学会化の意味を考える。

12:30-14:30 設立記念シンポジウム

『質的探究の方法論としてのTEA：その魅力と可能性を探る』

企画司会者：中坪史典(広島大学)

話題提供者：田垣正晋(大阪府立大学)

話題提供者：北出慶子(立命館大学)

話題提供者：木戸彩恵(関西大学)

話題提供者：小川 晶(植草学園大学)

企画趣旨：

時間経過とともにある人生径路や人間発達の多様性・複線性を描き出す複線径路等至性アプローチ(TEA)は、心理学はもとより、保育学、社会学、社会福祉学、応用言語学、教育学、経営学など、幅広い分野の研究者や実践家によって用いられている質的探究の方法論である。本シンポジウムでは、多様な学問分野の視座から、それぞれの研究の経験をもとに、TEAの魅力と可能性を探ることを目的とする。社会福祉学、応用言語学、心理学、保育学の立場から4名の話題提供者が「私とTEA」というテーマで報告する。その上で、参加者と登壇者で相互に議論する。

14 : 40-16 : 40 TEA 講習会初級編

講師：安田裕子（立命館大学）

TA：土元哲平（立命館大学）

企画趣旨

TEA（複線径路等至性アプローチ）は、文化心理学に依拠した、過程と発生をとらえる質的研究の方法論である。TEA の中心には、文化的・社会的な影響を受けて実現する人間発達や人生径路の、複線性や多様性、潜在性・可能性を時間経過のなかでとらえる TEM（複線径路等至性モデリング）がある。

すなわち TEM は、時間と可能性の幅の 2 軸でプロセスを描出することを特徴とする。本講座では、TEM に関する講義ののち、簡単なワークを行う。

TEM 初級編の講習会である。

総合司会：大川 聡子(関西医科大学)・荒川歩(武蔵野美術大学)

参加申込先

下記 Zoom リンクから氏名とメールアドレスを事前登録してください。 [登録用 Zoom リンク](#)

登録後、ミーティング参加に関する情報の確認メールが届きます。

最新情報は、学会ウェブサイトをご覧ください。